

最優秀賞受賞にあたって

沖縄県南城市立大里北小学校

ぎ ま かな こ
儀間 奏子



「第36回東書教育賞最優秀賞」という素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。また、審査をしてくださった先生方、東京書籍の皆様にお礼を申し上げます。

2020年。本来ならば日本中がオリンピック一色で、平和の祭典を世界中の人たちと分かち合う、素晴らしい年になるはずでした。しかし、始まってみると、未知なるウィルスの対応に振り回され、世界中が大混乱の中で一年が終わってしまいました。

沖縄県にとっても2020年は、戦後75年という大きな節目の年でした。沖縄戦を体験し、二度とあのような戦争を起こしてはならないと尽力してくださった先輩方が、次々と旅立たれる中、私自身も平和教育の担当として、学校の平和学習を創り出す大事な一年にしたいと思っていました。しかし、今年ばかりは多くの方と同じように、予定していた計画が全て白紙となってしまいました。

年度当初の全国一斉休校の期間は、外出もままならない中でしたが、時間だけはたっぷりありました。そこで、ただ現状を嘆くのではなく、この状況を俯瞰してみました。新型コロナウイルスは、世界中を混乱の渦の中に巻き込み、人々を未知なるウィルスの脅威に陥れました。しかしこの状況なら、子どもたちにとって遠い過去の沖縄戦当時の人々の不安や恐怖を、少しは共感できるのではないかと考えました。元白梅学徒隊の中山きくさんが体験した沖縄戦や戦後の苦難を

知り、コロナが収束した未来を想像するという、過去と現在、そして未来を考えることのできる紙芝居を制作しました。6月の平和月間を出発点とした平和学習は、総合的な学習の時間で学んでいる福祉と繋がり、現在も子どもたちと学びを深めているところです。その中で、一人一人が自分を大切に、相手を大事にする子どもに育ってきたように感じます。ここで学んだことが、いつか未来を切り拓く人として成長するキッカケになればと考えています。

今回の実践は、中山きくさんをはじめとする沖縄戦の体験者の皆さん、これまで様々な示唆を与えてくださった日本生活教育連盟の先輩方、元琉球大学教授の加藤好一先生、大里北小学校の平良正哉校長をはじめ職員の協力で行うことができました。そして、何にでも一生懸命に頑張る素敵な4年1組の皆さんのおかげで、新しい平和教育を創ることができました。周りの皆さんのおかげで今があります。ありがとうございます。

最後に、拙い実践ではありますが、沖縄の平和教育を発信する機会を与えていただいた東書教育賞に関わる全ての皆様へ感謝申し上げます。本当にありがとうございました。